

■理学療法士が知っておきたい社会保障制度■

共働き世帯におけるパパ理学療法士の働き方

ワークライフバランス委員会

原 耕介 柴 ひとみ

男性の家事・育児への参加促進や、ワークライフバランス、働き方改革などにより、家庭や仕事を取り巻く環境は、ここ数年で大きく変化してきています。それに伴い、働き方の多様化や一人ひとりの仕事に対する価値観の変化も起きてきているのではないのでしょうか。

近年、男性の家事・育児参加が増えてきており、男性の育児休暇取得も推進されています。しかし、昨年度ワークライフバランス委員会で開催したアンケートの結果では、子供がいる男性のうち、育児休暇を取得したことがある理学療法士は1名（取得率0%）であり、制度はあるが利用している人は非常に少ないというのが現状です。

私はいま、共働き世帯で2児の父親ですが、育児休暇制度を利用したことはありません。それこそ、仕事中心の生活で、家族はどこか他人事に感じてしまうこともありました。患者さんの生活をみることはできるが、家族や自分の生活をみることはできない、そのような状態だったように思います。自分自身のワークライフバランスを見つめ直すきっかけとなったのは、2人目の子供が生まれてからでした。それまでも、家事・育児を手伝っていましたが、「手伝う」ではなく、自発的に「する」という意識を持つようにしてから、少しずつ生活や仕事が変わっていきました。

仕事に偏った時間を修正していく過程で、臨床以外の業務の効率化が図れ、家族との時間を増やすことができました。また、家事・育児を自発的に「する」ことで、今まで見えなかった生活の中での大変なことにも気づけ、それはそのまま臨床にも還元できることでもありました。

このように、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を見直していく上で、一番のお手本となったのは、同じように働きながら家庭を守る妻でした。夫婦共働きは大変な面も多ありますが、互いに学び共感ができる環境でもあるのだと考えます。

さて、ここまで私の実体験を憚りながら綴らせて頂きましたが、これを以て、本稿のテーマである「共働きパパ理学療法士の働き方」はこうあるべきだと提言することはできません。

冒頭で述べたように、働き方や価値観は多様化しており、ワークライフバランスの在り方は家族の数だけあるように思います。何かのきっかけで、今の働き方を見直す機会が出てくることかと思えます。そのような時に、お力になれるような活動や情報発信を、ワークライフバランス委員会を通して行っていきたいと思います。